

棚田ライナス

第21号 2001.2.28
(季刊・年4回発行)

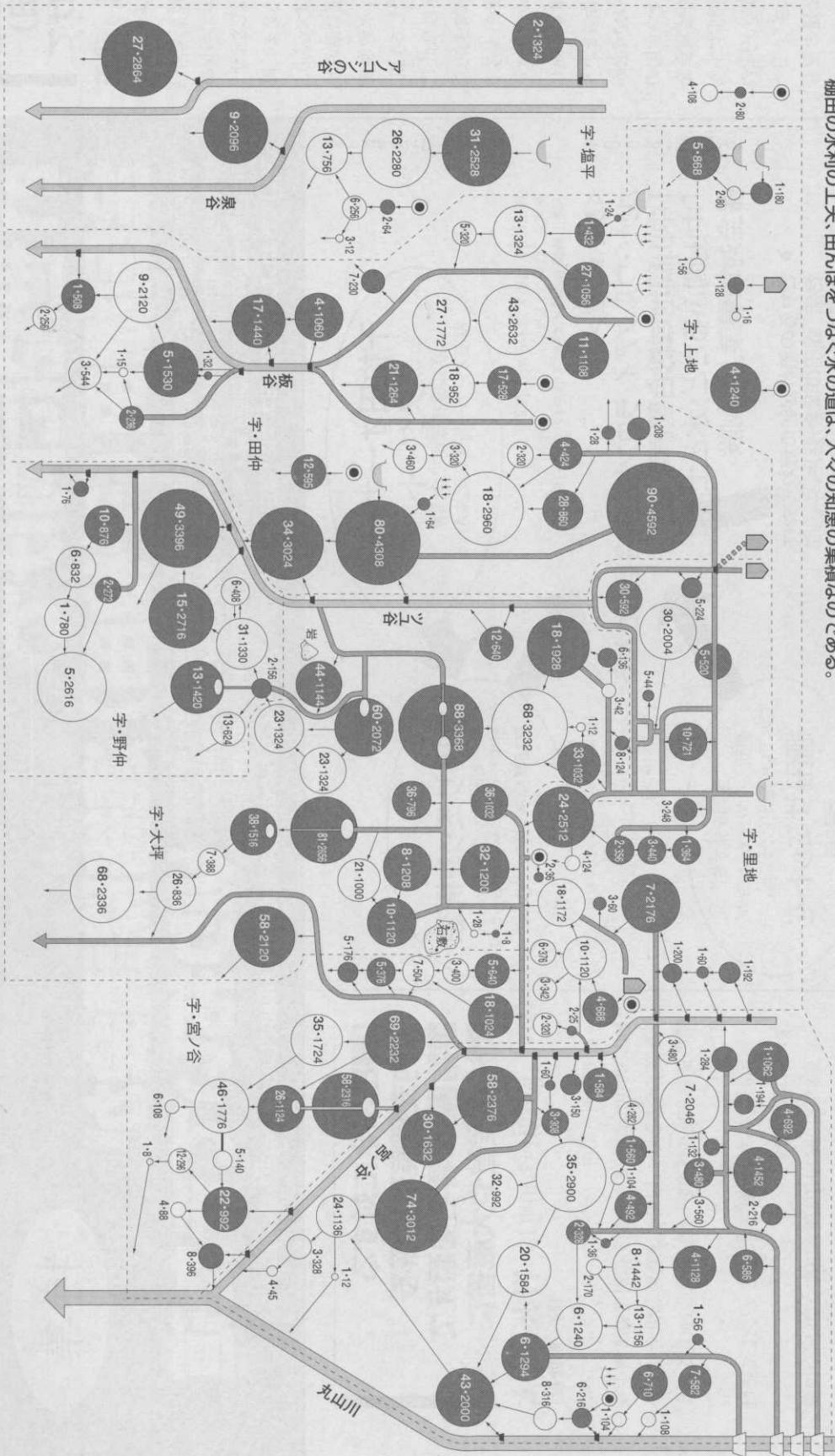
発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきやらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078

三重県丸山千枚田、利水系統図

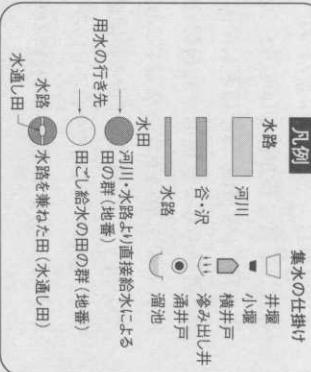
これは、明治31年当時の三重県紀和町丸山千枚田の田んぼ利水系統図（TEM研究所作成）である。現在、丸山千枚田の田の枚数は1370枚のため、2483枚から成したという。解説文から抜粋しよう。

「基本は小さな一枚の田が連なった畦ごし田の群を形成した番地から、他の番地の畦ごし田の群に畦ごしで落とし水を流し込んでいる。しかし複雑な配線圖になっているのは、それを助ける水路による給水があり、水通し田による他群への供給があり、かつ一連の棚田からの川、谷への排水、この水を再び拾って、下部の棚田群へ供給する多数の小堰の存在があつたからである」（「SOLAR CAT」No.39「山間に拓かれた石垣づくりの千枚田—三重県紀和町丸山の景観とその構造—」TEM研究所）。

棚田の水利の工夫、田んぼをつなぐ水の道は、人々の知恵の集積なのである。



作成：TEM研究所「SOLAR CAT」
No.39 (OMソーラー協会発行)
復元：より引用
※各水田群（地番）の数字
左側大字＝枚数
右側数字＝総面積（m²）



第1回全国棚田(千枚田)サミットを立ち上げて

高知県椿原町長 中越 武義

愛媛県と境を接する四国カルストのふもとの本町は、人口5千人足らずです。農林業と畜産が支えのこの山里で平成7年(1995)9月28・29日の両日、第1回全国棚田(千枚田)サミットを開催しました。サミットには全国142市町村から約1200人も集まり、町民にとっても大きな自信になったのをいまでもあります。農民が血のにじむ努力で山の斜面に階段状に築いてきた棚田は千枚田とも呼ばれ、水源涵養や国土・環境保全にも大きな役割を果たしてきましたが、厳しい労働を強いられる割に生産性は低く、後継者不足と高齢化にあえぎ次第に廃れてきました。

「何とかして残したい」と平成4年(1992)から千

枚田オーナー制度を始めました。京阪神の人たちを中心に関連を進め、田植えや収穫期には家族連れが訪れ、瑞穂の国の有難さと先人達の苦労をかみしめながら、地区の方々とのふれあいが大きく広がってきました。その経験をもとに棚田を持つ全国の自治体に声をかけたのが、全国棚田連絡協議会発足とサミット開催のきっかけとなりました。開催にあたり現在の農業政策に逆行するのではないか」との危惧も持たれましたが、棚田の果たしている多くの様々な役割に視点を向けた取り組みこそ、私達の使命であると考え開催しました。

サミットでは、棚田を保全していくためには「棚田

を守る地域に日本型デカッブリングが不可欠」と確認しあい、国等への働きかけを行ってきたところ、昨

年(平成12年)中山間地域等直接支払制度が創設されました。このことは、サミットを立ち上げたことの最大の成果と考えています。

これからも棚田保全を願う全国の方々との交流の輪が、益々、大きく広がり、全国人民の貴重な財産として日本農村の原風景、歴史的景観を次代に残したいと思います。

21世紀に向けて—

全国棚田(千枚田)連絡協議会が 切り拓いてきた道

特集

1995年に発足以来、全国棚田(千枚田)連絡協議会は、毎年サミットを開催しながら、「棚田地域等緊急保全対策事業」、「名勝指定」「日本の棚田百選」「中山間地域等直接支払制度導入等、棚田保全、地域活性化への道を切り拓いてきました。そして、日本中に「棚田」という言葉を広げ、多くの方々の関心を高めてきた5年間でした。その歩みを振り返ります。

佐賀県西有田町長 岩永 正大
(当時 町助役)

「棚田保全に対する
公的支援実現に係る
要請書」に署名を添えて
農林水産省や大蔵省に

佐賀県西有田町長 岩永 正大
(当時 町助役)

佐賀県西有田町では今年度(平成2年度)から始まった中山間地域等直接支払制度の事務手続を終了すると共に、棚田地域等緊急保全対策事業の最終年度の目途をつけ、新たな21世紀を迎えました。

棚田の保全活動に関わってきた一人として感慨深いものがあります。

平成8年(1996)9月に西有田町で第2回全国棚田サミットを開催し、共同宣言として直接所得補償制度の導入について積極的に取り組むことが採択されました。

平成9年(1997)4月に全国棚田(千枚田)連絡協議会の事務局を引き受けになり、以来、共同宣言に基づく諸活動を精力的に展開してきました。

時あたかも國では農業基本法の抜本改正に向けて食料・農業・農村基本問題調査会が発足。事務局として、全国の特定農山村、山村振興、過疎地域に指定されている1800の市町村や議会に呼び掛け、調査会へは、政府の諮問あつては棚田に象

1992(平成4)
1993(平成5)
1994(平成6)

1992(平成4)
1993(平成5)

1992(平成4)

全国棚田連絡協議会準備会発足

三重県紀和町で「紀和町丸山千枚田条例」ができる。

▶これらの流れが時の流れも受け、合流。棚田の保全・活用、中山間地域の活性化、ネットワークを目的とした連絡協議会の設立へとつながっていった。

千枚田オーナー制度
が千枚田サミット構想
が千枚田オーナーの中から
高知県椿原町に出される。

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・石川県輪島市では1956年に市文化財に
千枚田を指定。それ以来、行なってきた
支援をもとに「輪島市千枚田景勝保存基
金」(8100万円)設立。

・高知県椿原町では、
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、
棚田オーナー制度が実施される。
<農林水産省>
「中山間地域総合整備事業」
「中山間ふるさと・水と土
保全対策事業」等創設

・高知県椿原町が「棚田天然米産地育成事業」
を実施。(1992~1995)
「棚田地域営農条件等整備事業」(1995~1999)

・高知県椿原町で全国初、<

「棚田」という文字を冠にした初めての国家予算

山口県 農村整備課長 山岡 和純
(当時 農林水産省開発課)

「棚田」という文字を冠した初めての国家予算「棚田地域等緊急保全対策事業」と「棚田地域水と土保全基金事業」は、平成10年度予算政府案の農林水産大臣と大蔵大臣の復活折衝で要求の満額が認められました。通例、各省の目玉政策として最もPRしたい予算を大臣復活折衝に持ち込みます。

合わせて3年間で540億円という予算規模と從来の常識を超えた補助内容もさることながら、これまで見捨てられてきた棚田を前面に押し出し、その役割と生み出している価値を真正面から評価したことが、その後、平成11年(1999)の食料・農業・農村基本法に「農業生産活動が行われることにより生ずる多面的機能については、将来にわたって適切かつ十分に發揮されねばならない」と規定されることに繋がったと考えています。

この予算の獲得にあたっては、農水省内でも大蔵省でも初めは門前払いも同然でしたが、棚田が近代農業の現場として否定されている現状への限りない疑問、そして棚田で頑張って美味しい米を作っている農家こそが農の魂の継承者だという強い思いを原動力に、棚田に対する世論の追い風を徹底的に利用させていただき、農業の多面的機能とデーターリング的政策を棚田に焦点を当てて理論武装することで厚い壁に穴を開けることができました。

その後、この穴を開けたのが「中山間地域直接支払制度」と言えます。

ふるさとやらんの皆さん精神的後押しおほか、朝日新聞社の村田泰夫さんの記事、全国棚田連絡協議会会長の藤原寛西有田町長さんの大蔵省への5万人署名運動など、多くの方々の汗と思いが結実した予算が平成10年の通常国会で成立したのです。

第1回全国棚田(千枚田)サミット

高知県勝原町

全国棚田分布図
が作成される

テーマ:「棚田のきのう(過去)きょう(現在)あした(明日)」
日本初、棚田保全を目的としたサミットが開催。1995年9月28~29日、全国から142市町村171人が参加した。棚田の公益的機能が確認されたほか、直接所得補償を求める声が相次いだ。

全国棚田(千枚田)連絡協議会設立

1995年9月

棚田フォトコンテスト (同時イベント)

2700点以上の応募があった。

「棚田ライステラス」(年4回)
創刊決まる

・フリーピン「コレディエラ山脈の棚田」
が世界遺産に 1995年12月

第2回全国棚田(千枚田)サミット

佐賀県西有田町

テーマ:「棚田・未来を耕す～都市との共生の中での開拓」
1996年9月10~11日、全国から148自治体46団体1126人が参加した。日本型デカッピングの導入や都市住民との交流を深め、理解を広げようと論議された。

写真集「棚田」(ふるきやらネットワーク編)が出版。カレンダーにもなった

1996(平成8)

1997(平成9)

1998(平成10)

1999(平成11)

2000(平成12)

2001(平成13)

2002(平成14)

2003(平成15)

2004(平成16)

2005(平成17)

微される中山間地域農業の多面的機能の評価と維持促進、直接所得補償制度の導入を答申いただくよう要望書の提出を、又、国へは議会の議決をへて意見書をそれぞれ提出いただくように要請していました。

全国の多くの市町村及び議会の理解と賛同により、これらのことことが今日の食料・農業・農村基本法の基本理念に反映されていることは協議会のこれまでの取り組みの成果であろうと考えております。

又、事務局ではこれとは別に、棚田の保全に対する基盤整備事業等の創設に向けた取り組みを展開してまいりました。

農水省構造改善局開発課では、全国棚田(千枚田)連絡協議会が棚田サミットを開催するなどして

全国的な棚田の保全活動を行っていることに理解を示し、具体的な棚田保全対策として新規制度の創設を平成10年度の概算要求に盛り込み財政当局と鋭意検討していることを聞き、協議会としてもこれを側面から支援すると共に是非実現していただくために「棚田保全に対する公的支援実現に係る要請書」を提出すべく署名運動を展開いたしました。

平成9年(1997)9月中旬から9月末までの僅か半月足らずの間に全国から5万1千余名もの署名をいただき、翌10月には農林水産省や大蔵省他関係部署へ署名を添えて要請いたしました。

農水省構造改善局開発課職員の方々の棚田保全に対する絶大なる理解と情熱、それに協議会の取り組みとが相乗効果として実現したのが「棚田地域等緊急保全対策事業(300億円)」と「棚田地域水と土保全基金事業(240億円)」であった訳です。

これらの署名活動には港区芝に事務所を持つ農村環境整備センターに大変な協力をいただきました。このことが縁で以降、協議会の幹事会の開催はセンターの会議室を無料でお借りしています。

・徳島県が「棚田等資源活用推進事業」を実施。(1997~2001)
・兵庫県が「棚田保全緊急対策事業」を実施。(1997~2001)
(社)農村環境整備センターでは、年3~4府県のベースで5年間、数量的データ、アンケート調査、現地調査等を行いました。

バトンを受け継ぎながら、念願の「中山間地域直接支払制度」が平成11年に

長野県更埴市長 宮坂 博敏

棚田の持つ景観のすばらしさ、また多面的な機能を後世に残したいとして、私達は全国的に連繋をとり合い運動を進めてきました。その結果、関係方面にご理解をいただき平成11年(1999)7月に成立了「食料・農業・農村基本法」の中に中山間地域の生産条件を改善するために待望の中山間地域等直接支払制度が盛り込まれました。

現在、当市においても集落協定を締結し、関係者が希望を持って作業を進めています。

また、当市の廃捨の棚田は、全国で初めて文化財の名勝に指定され、また全国棚田百選にも選ばれました。四国の椿原町の中越町長さんが全国に呼びかけられサミットを開催されてから各地にハイカウントが渡されてきましたが、年々この運動は大きな注目を集め、また農業の原風景を守ろうと多くの方々に愛されています。これからも力を合わせて棚田の保全に努めたいと思います。

「棚田パラマ体験展」を企画する

ふるさときやらばん作・演出家 石塚 克彦

棚田サミットを仕掛けたり、棚田学会を立ちあげたりと、棚田を何とかしなければ行動して来たけれども、いざれにしても棚田についての国民的关心と認知なしには、棚田を守るために活用するにしても不可能である。

都会のト真正ん中で、最たる田舎のシンボルでもある

1997(平成9)

「棚田保全に対する支援実現にかかる要請書」提出のため署名運動

全国棚田(千枚田)連絡協議会事務局(当時、佐賀県西有田町)で署名運動を9月中旬～9月末に展開。全国から5万1000人以上の署名が集まつた。10月に署名と要請書を農林水産省や大蔵省他関係部署へ提出した。

第3回全国棚田(千枚田)サミット

テーマ:「棚田・いま時代と共に 国民理解を求めて」
1997年10月15～16日、全国から151自治体82団体を含む435人が参加。付加価値商品への取り組みや直接所得補償制度導入に向けて意見が交わされた。

<農林水産省>

「棚田地域等緊急保全対策事業」

事業費:300億円。緊急保全整備等ハート面。(平成10年～12年度)

「棚田地域水と土保全基金事業」実施

基金造成240億円。集落等による棚田保全等への支援などが下記。(平成10年～12年度)

▼ ウルケアイ・ラウント対策費を活用して、初めて、棚田地域の特性を生かせるきめの細かい2つの事業ができる。

OECD(経済協力開発機構) が日本の棚田を調査

1997年9月22～26日に、OECDの農村地域開発プログラムチームが、日本の棚田を農村景観等の研究の一環として調査した。

ふるさときやらばんが長野県の全市町村の棚田を調査した「信州の棚田ものがたり」が第3回棚田サミットに合わせて発行される

棚田はエライ ——棚田を教育の場に

新潟県安塚町長 矢野 学

平成10年(1998)、第4回全国棚田(千枚田)サミットを当町で開催するにあたって新たな視点として、棚田の持つ心の教育・学習の場としての機能を取り上げた。この反響は大きく、年々ますますその重要性が叫ばれるようになってきている。

さらに現在は、農林水産省、文部科学省、環境省連携で棚田地域での体験活動や環境教育などの調査が行われており、教育の場としての棚田の再評価につながるだろう。自然体験から学ぶ多くの事柄がいままでおざりにされてきたのだ。

土を見つけ、当町にいっしょに来たお母さんから「殺しないといわれて、足で姿、形のないほど踏みつけた。私なら、ぶち、とやって、死んだことを確認するくらいだろう。土から生まれる植物も、虫も命がある。同じじ生命を持つ人間は、自然界の命を絶やしたら生きていられない。

従って、誰かに生かされ、様々な命を奪って生命維持していることを体験によって身につけることが重要だ。その素材は、棚田にいっぱいある。

当町では、体験学習をPRL、修学旅行としても受け入れている。棚田の田植え等を体験し、農家に泊する修学旅行は教育界にも好評だ。棚田の持つ多面的な機能を生かし、体験と学習によって得た実事こそが社会の歪みや犯罪を防止する有効な手段となる。

次なる時代は間違いなく、本物の自然体験による人間しさを取り戻す世紀である。棚田はやはりエライのだ。

第4回全国棚田(千枚田) サミット

新潟県安塚町

▶ 「棚田地域水と土保全基金事業」ができることから、基金を積んだ各県において、それとの棚田保全事業が設けられはじめた。

テーマ:「棚田と私たちの関係～棚田は都会の私と田舎の私の橋渡し」

1998年9月19～20日、全国から1008人が参加した。はじめて3分科会でシンポジウムが行われ、棚田地帯自らが問題解決をしようと「生産」「教育」「交流」の視点から論議がなされた。

・鳥取県で県が運営するボランティア組織「棚田ファンクラブ」が創設
1998年10月

る棚田の魅力と凄さをドーンとアピールすることによって、いっさいに棚田を国民的な関心事にしてしまったい企画したのが「棚田パノラマ体験展」(1999年7月27日～8月8日)であった。

東京日本橋・三越で、まるで本物の棚田の前に立つたような、大型写真を灯入れのコルトン(行灯)にして展示した。それは、リアルなインパクトを都会の人々と各メディアに与え、今日のアームともいいくべき棚田への関心を引き起した。

棚田に関する新聞、テレビなどの報道は今は抜がりを見せており、その事実が、棚田パノラマ展の成功をものがたっていると思う。

棚田百選ができた

農林水産省 農村振興局設計課 南部 明弘
(当時 棚田百選事務局)

平成11年(1999)7月26日 日本の棚田百選が

中川農林水産大臣の認定を受けた日である。

棚田は、長年の労苦の結晶として、地域社会の機能が健全である証拠として、当時も「エライ」と思われておりました。しかし、これを個別に認定するとなると大変で、一から選定委員会の先生方のお世話をになり、各地の自農、他農の棚田から委員会で選定していただき、117市町村の棚田が選定できました。時間も十分でないなか、思い入れ半分で走っていった事務局にメダル、しっかりと選んでいただきました。委員の皆様方には、ここで深く感謝申し上げたいと思います。

一方、事務局はどういうと、予算もないなか始めたことであり、大臣認定証の毛筆墨書きに担当が苦労したなどと、笑い話にも事欠かず、楽しい作業でした。

今、市町村のパンフレットなどの中に百選と誇らしげに印刷された棚田の写真を見るにつれ、各地の棚田が力強く、うるわしく歩み続けて欲しいと願っています。

1999(平成11)

日本初、棚田の専門研究書「日本の棚田」
(中島峰広著)発行

<文化庁>

長野県更埴市娘捨棚田「名勝」指定

1999年5月、更埴市の娘捨地区の棚田が、松尾芭蕉をはじめ俳諧の名所として文学的・歴史的価値も高いと「名勝」指定。

・新潟県でもボランティア組織「ECHIGOたな田サポート」が結成。

・石川県輪島市で45ヶ国の大使館外交官が参加して、「1999地球環境米菴フォーラム in 輪島」を開催。

「棚田はエライ」(石井里子編著)として発行
津田子編著)として発行
安塙町で棚田を学習の場に生かす
「棚田ワークブック」の作成。

・福岡県星野村で「広内・上原地区棚田保護条例」ができる。

・鹿児島県内で「棚田等保全協議会」が「まつり事務局」が発足。

棚田を
教育の場に生かす
視点の登場

棚田を文化財に

文化庁主任文化財調査官 大島 啓雄

棚田はわが国を代表する伝統的な生業景観の一つですが、日本の文化財保護のなかではこうした景観そのものを文化財として捉える手法はまだ確立していません。

文化庁は、平成7年(1995)に高知県梼原町で開催された「第1回全国棚田(千枚田)サミット」から後援団体に名を連ねていますが、その当初の後援理由は棚田保全の試みそのものではなく、同時に開催された「棚田写真コンテスト」がその対象でした。当時の文化庁には、棚田を文化財として捉える土壤はまだ整っていなかったのです。

こうしたなかで、私は棚田を文化財として保護するため、文化庁監修の『月刊文化財』平成9年(1997)1月号紙上で「棚田特集」を組みました。これを契機に農林水産省が主として棚田の農業基盤の整備面を、文化庁が文化面からの価値付けを担当する形で現在に至っていることはみなさま既にご承知の通りです。

文化財としての棚田は、民俗文化財・名勝などの範疇で価値付けることが可能です。その後の農水省の積極的な諸施策の展開に対して、文化庁は平成10年に長野県更埴市の娘捨地区、平成12年に石川県輪島市の白米地区の棚田を名勝に指定したことによっており、文化財行政に携わる者として努力不足を自戒するばかりです。

しかし、棚田のような地域文化財は、そこに住む人たちが主体的にその価値を発掘し、自覚することでしか守ることは出来ません。私たちはこれからも文化財調査などのお手伝いを通して、棚田の価値の解明に努めて行きたいと考えています。皆様の一层のご協力をお願いいたします。

「日本の棚田百選」農林水産大臣が認定

1999年7月27日～8月8日、全国棚田(千枚田)連絡協議会が主催、東京・日本橋三越で多くの人々に棚田をアピールしようと大型の棚田の写真や本物の水生昆虫、棚田の仕組みや暮らしを展示するなどイベントを実施。農林水産大臣、文化庁長官も訪れ、7万3千人の動員となった。

「棚田パノラマ体験展」7万3千人動員

1999年7月27日～8月8日、全国棚田(千枚田)連絡協議会が主催、東京・日本橋三越でより多くの人々に棚田をアピールしようと大型の棚田の写真や本物の水生昆虫、棚田の仕組みや暮らしを展示するなどイベントを実施。農林水産大臣、文化庁長官も訪れ、7万3千人の動員となった。

棚田保全事業の継続に向け

第5回全国棚田（千枚田）サミット 三重県紀和町

全国棚田（千枚田）連絡協議会 会長
下川 勝三
(三重県紀和町長)

新世紀を迎えた今、心の豊かさ、自然の豊かさの世紀のはじまりであります。

・棚田学会と食料・環境ふるさとを考える山口県地域
人会議が、20,000枚を数える西日本最大の棚田地域・
山口県向津半島で現地調査とパネルディスカッショ
ンを開催。2000年7月

・北海道深川市で「2000地域環境米」開催。
わ」を開催。60ヶ国の大使館外交官が参加。

第6回全国棚田（千枚田） サミット 福岡県浮羽町・星野村

テーマ：「棚田新世紀～小さな棚田、大きな役割」
2000年9月13～14日、全国から1025人（地元を除く）
が参加し、地元ボランティアガイドによる棚田めぐりや
小学生の棚田学習発表など地元の意識を高めるサミ
ットとなった。

農林水産省、環境省
文部科学省、環境省
合同で「棚田地域等の多面
的機能を活用した体験活動に
による地域活性化推進調査」が
行われる

農林水産省、環境省
文部科学省、環境省
合同で「棚田地域等の多面
的機能を活用した体験活動に
による地域活性化推進調査」が
行われる

農林水産省、環境省
文部科学省、環境省
合同で「棚田地域等の多面
的機能を活用した体験活動に
による地域活性化推進調査」が
行われる

中山間地域等直接支払制度は平成12年（2000）度から実施されています。12年度は330億円の予算がついており、ちょうどいま、県から各市町村へ、市町村から各集落へと支払いが進んでいるところです。これから5年、中山間地域はますます活発な動きをみせてくれることでしょう。

新たな事業ができる 「棚田地域等保全整備事業」 が平成13年度から

農村整備課 **松田 博**
農林水産省 農山村振興局 整備部

棚田地域では、依然として高齢化が進んでおり、
今後、多面的機能を十分に發揮していくことが懸念
されます。このため、保全すべき棚田を明確にし、高
齢者も農作業が続けられるよう必要な支援を行なうこ
とを主目的として「棚田地域等保全整備事業」を平
成12年度補正予算から創りました。

事業内容は、財政状況が厳しいことから、棚田地
域の条件に適した営農継続に必要最小限の工事
を中心に実施し、平成16年度までにおよそ1,200ha
の棚田を整備する予定です。

内容は、小型作業機械が安全かつ効率的に利
用できるよう農道や耕作道の舗装、畦畔を撤去し數
枚の田んぼを1枚にする区画整理（まち直し）、農作
業を簡素化するため畦畔や水路のコンクリート化な
どで、他に交流や生活環境施設も整備可能となっ
ています。

このように、できるだけ工事費を抑えた“簡易な整
備”で耕作放棄を抑制し、棚田保全のお手伝いを
してまいります。

2000(平成12)

1999(平成11)

丸山千枚田も、今は二番生えの枯れた稻穂が寒
風にそよいで春の田起しきをまだかまだかと待
っているようです。

皆様のお陰で、6回を数えるサミット開催、全国棚
田百選の認定、更には棚田学会の設立等、私達の
地道な活動の成果として広く、そして多くの方々に
認知していただいておりますことに共に喜びとする
ところです。

協議会として、毎年国あるいは県に対し、棚田保
全のための施策をサミットでの場等の意見をもとに
要望してまいりました。

ややもすると米の減反が叫ばれている中、厳しい
場面もありましたが、国土の保全、水の涵養、そして
何よりも心のふるさとを訴え続けてまいりました。集
落が一定の協定のもとに農地を保全することによる
国の補償制度「中山間地域等直接支払制度」もこ
の運動の成果であり、又昨年まで続きました「棚田
地域等緊急保全対策事業」も棚田を守る地域にと
って画期的事業となりました。

昨年も13年度予算編成の真っただ中、農林水産
省、大蔵省に赴き、棚田の用排水路、耕作道の整備、
そしてオーナー制度への支援等、地域にあった次
なる施策の展開を要望してまいりました。

こうした地道なしかも継続した活動が今後も重
要なことありますし、より地域にあった施策の展開
を国県に対しても働きかけていくものであります。

石川県輪島市白米千枚田 を「名勝」指定

2001年1月、更埴市に次いで輪島の千
枚田が名勝に指定。

第7回全国棚田（千枚田） サミット 石川県輪島市

「中山間地域等直接支払制度」
現在、各集落へ「直接支払い」
進行中

「中山間地域等直接支払制度」は平成12年（2000）度から実施されています。12年度は330億円の予算がついており、ちょうどいま、県から各市町村へ、市町村から各集落へと支払いが進んでいるところです。これから5年、中山間地域はますます活発な動きをみせてくれることでしょう。

*2002年は千葉県鴨川市の開催が決定している。

高知県梼原町

取材・文・石井里津子

心と心をつなげあう 「雲の上のまち」の 「千枚田オーナー制度」

棚田が荒れはじめ、「このままだと千枚田がなくなるという危機感」からだつた。役場も集落も賛同したものの、「立ち上げても来るもんもおらんやろ」そんな風に考えていたといふ。

になるがです。そうやつて、農家の方のようすを見ながら来たんです。だから農家への感謝の気持ちはどんなことがあっても消えないです」。

を伝えることができるようになつたという。

がにこやかにいった。「最終的に
は心と心の交流やからなあ」。

が、平成4年(1992)、15組の募集に対し、関西版の新聞に掲載されたこと也有って、応募は150組にものぼった。四万十川源流域をアピールしようとよかつた。

とともにあつた。この10年、オーナーを世話をしていた農家で「亡くなつた人もいる病気で世話ができなくなつた人もいる。世話を当番制でしたこともあつた。一方で「オーナー制に使ってもらいたい」と農地

性が見事ゴーリン。集落の神社で三三九度をあげ、田植えをして結婚を誓つた。

ろうか。椿原の人たちは「心」や「思い」を大事にする。心の深淵で人とつながろうとする。そんな生き方は都会にはない。時間はかかるが、深いところで心が触れ合う喜びが、人の生き方まで変えてしまうのだろう。

高知県桃原町には町の二ヒーにあるとおり「雲の上」にあつた。かつて「四国のチベット」とも呼ばれただけに、道路が整備された現在でも高知市内から車で優に2時間はかかる。山深い。

かづたオーナーが訪れる田植えや稻刈り時は、農家は忙しい盛りだ。そこで夏に交流会を開くことになった。この日は、日頃の感謝を込めてオーナーが農家を接待する日とした。

「やる」といってくれた。町を出でた地主も「千枚田のためやつたら、うちの土地差し上げます」といってくれた。

「ぼくは、大阪から来てましたけど、1年目からここに定住したかった。でも10年かかってようやく軟着陸した。これまでもやつてこようとしたんですよ。でもそのときに親父が倒れて松佳信進事業で土地と住家を提供してもらったのだ。田村さんはいう。

いう言葉には収まりきらない、人の心とつながろうとする、その強い気質、欲求がオーナー制度を継続させ、オーナーを虜にしてきたのではないだろうか。マンネリ化も確かに心配だという。「10年やつたらやめる」という農家もあるという。けれど

神在居集落 標高約 600 m
ほどのところに 2 ha, 213 枚
の棚田がある。ここで、日本初
千枚田オーナー制度が誕生した
のだ。そしていま、10年目の春
を迎えようとしていた。

冒頭の作業だけでは交流は不十分で、夜の交流会、本音を語る酒での交流が大切ですねえ」。

サミットが桃原町で開催され
現在、風力発電は稼働中だ。

山（愛媛）に帰らないかんようになつたり。無理して来てたら10年もたんかつたかもしれん」。
平成12年（2000）度の才1
ナーレは28組、162名。3分の
2がリピーターである。そのう

きと春が来たら樋原の人はまた人に会いたくなるのだろう人に出会い、人と心が通じ合い、つながるシステムが樋原にはあつてているのにちがいない。

日本初の千枚田オーナー

平成3年(1991)、当農水省から町に来ていた職員から「千枚田オーナー制度」の提案がなされた。平成に入つて

わった12月頃に、翌年のこといつてもダメなんですよ。春が来て木々が芽吹く頃、不思議なもんでこのころに話すとみんなやる気

平均年齢も62歳になつた。年はとつたが、兼業農家だつた人が退職し、これまで以上に対応や世話ができるようになつた。心

漬的に農家が潤うものではない。
「何のためにやるのか——」。

多くの人が足を運ぶだろう。「雲
の上のまち」には、山や川、そし
て人の「原点」があるようだつた

輪島市 白米の千枚田が「名勝」に指定!!

平成13年1月29日、石川県輪島

市白米の千枚田が、文化庁から「名勝」に指定された。

白米の千枚田は、輪島市街地の東方約8kmの高洲山（標高425m）から、日本海岸に向かって下がる急傾斜地に拓かれている。棚

田は、白米の集落を南端、海岸線を北端とする高低差約50mの地域に展開し、東西約300m、面積約1.8haに広がる。

白米の千枚田は、地すべり地帯という特有の地質構造と密接に関係し、稲の生産の場であるとともに災害から地形を保全する機能を同時に果たしてきた。

白米の集落の起源は16世紀以前ともいわれるが、記録で確認できるのは17世紀以降のこと。貞享元年（1648）に発生した大規模な地すべりで水田の大半が失われ、その後、荒れ地のまま遺棄され、いたが、19世紀後半になって徐々に水田は回復した。明治12年（1879）の絵図によると、ほぼ現状の畦畔に近い水田の形状が完成していたことがうかがえる。

白米の千枚田は田面数約800、一枚あたりの平均面積が18~20m²と極めて小さい田が集積し、畦畔が土坡で造られているところが特徴。それらを反映して、蓑の下にも隠れてしまうほどの小さな水田を、驚きと感慨をもつて詠った古謡が残されている。

「田植えしたのが九百九十九枚

あと一枚蓑の下 越中富士は田ど

ころなれど 能登は一枚千枚田

二百十日も事もなくすんで
爺さ出てみて南無阿弥陀仏

千枚田の景観には長年月積み重ねられてきた厳しい労働がうかがえるとともに、日本海を背景に海岸線まで及ぶ急峻な傾斜面に小さな水田が重畳する姿は誠に美しく、水上勉ははじめとする多くの文芸作品や写真等の題材ともなった。畦畔を歩くことによって得られる展望風景は、白米の千枚田特有である。

また白米の千枚田には、多様な昆蟲や植物が生息し、周辺の自然地域を含めた生態系の維持にも効果を果たしている。

奥能登地方では、近世の初頭以来、徳川幕府や加賀藩のもと、豪農を中心として水田開発が進んだが、一方では下人や小農たちが乏しい余暇労働力を永年にわって投じ、白米のような千枚田を営々と築き上げてきたのである。この意味において、白米の千枚田は、時国家に伝わる資産とともに近世奥能登地方を代表する文化遺産であり、この地方の生業と密接に結びついて形成されてきた顕著な文化的景観といつてよい。よって名勝に指定し、保護するものである。

お便りテラス

山形県新庄市に行われました「もがみグリーンツーリズム・フォーラム」オーナー制度（主催・山形県最上地方事務所）で、中島峰広氏（早

浮羽町企画振興課）の棚田オーナー制度等についての講演を四ヶ村開発協議会の会長・副会長と共に拝聴する機会を得ました。

山間地の急峻な地形を巧みに利用した生産活動を通じ、国土環境の保全や水資源の涵養、更には農村の原風景ともいうべき素晴らしい景観の形成といった、いろいろな面で公益的な機能を發揮して、周辺地域や下流域を含めた中山間地域農業の展開と活性化に重要な役割を果たしていると共に、棚田オーナー制度を継続的に行うには、生活や交流の展開に有効な社会基盤の整備や環境保全が課題であることや、限ら

る「棚田オーナー制度」や農家民泊を模索する農家も出はじめています。おり、里山の集落が徐々に脚光を浴びようとしている現状を踏まえ、村全体で棚田保全の機運を盛り上げ、交流を広げていきたいと考えているところであります。

（山形県大蔵村役場農林課 小関忠雄）

道が開かれると改めて感じたところであります。

本村においても、平成11年7月「四ヶ村の棚田」が「日本の棚田百選」として、農林水産大臣の認定を受けました。棚田百選を選ばれたことにより棚田の保全を進めていくこうという意思統一が図られ、代々守り抜かれてきた棚田の景観を新たな地域資源として、地域住民や行政が一体となり農村地域活性化に向け立ち上がるとしている状況にあります。

平成13年度には棚田オーナー制度や農家民泊を模索する農家も出はじめています。おり、里山の集落が徐々に脚光を浴びようとしている現状を踏まえ、村全体で棚田保全の機運を盛り上げ、交流を広げていきたいと考えているところであります。

（山形県大蔵村役場農林課 小関忠雄）

イベント情報

●「棚田での体験活動シンポジウム」開催

3月9日（金）13:30～東京大学農学部弥生講堂、条ホール（東京都文京区）にて「棚田での体験活動シンポジウム」（主催・農村環境整備センター）が開催される。中島峰広氏による「棚田地域の活性化に向けての諸課題と対策」講演のほか、農林水産省、文部科学省、環境省から事例発表。入場無料。問：（社）農村環境整備センター TEL：03-5448-45521

●棚田学会談話会

4月14日（土）15:00～東京原宿にある新潟館不スパスで、棚田学会の第3回談話会が行われる。講師に白石和義氏（農業総合研究所）を迎える。問：棚田学会事務局 TEL 042-381-6721

●第7回全国棚田サミット

石川県輪島市で開催される棚田サミットの日程が決まった。8月31日（金）～9月1日（土）。

全国棚田（千枚田）連絡協議会
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

三重県紀和町 企画観光課

〒519-5413 三重県南牟婁郡紀和町屋78
TEL 05979-7-1111 FAX 05979-7-1003

編集後記

今回、全国棚田（千枚田）連絡協議会の5年の歩みをまとめています。協議会が切り拓いてきた道の大きさを改めて実感できました。多くの人々の賛同、そして行動力の結果、改めてみなさんお一人お一人の力に頭が下がる思いでした。「行動してこそ、道は開ける」のだという印象をもつては私だけでしょうか。さあ、21世紀、あなたはどうなる活動をはじめますか？ お便り、情報お待ちしています。

石井里津子